

弔辞 謹んで故 山本 徳孝 先生のご冥福を心からお祈りし、田川郡退職中学校長会としてお別れの言葉を申し上げます。

生ある者は必ず滅するとは言え、この度の突然の訃報に接し痛惜の念に耐えられません。ご家族の皆様的心情は、いかばかりかとお察し申し上げます。

先生は、大学卒業後、昭和二十七年四月から川崎町立川崎中学校に奉職され、英語の担当教員として、また、学級担任として教育に対する強い信念と確かな実践力のもと、新任教師として元氣一杯、学習指導や生徒指導に全力で取り組んでこられました。この後、昭和三十一年度から添田町立英彦中学校、昭和三十八年度から川崎町立池尻中学校に勤務されました。昭和三十年代は、日本の高度経済成長を支えるため、この田川の地においても、炭坑の閉山と相まって、多くの卒業生を集団就職として関西や中京、関東方面に送り出してきました。辛くて悲しい生徒との別れも数多く経験されたことでしょう。

昭和四十七年度から福岡県教育庁田川出張所指導主事を務め学習内容の充実や図書館教育の普及・発展に尽力され、昭和五十年代からは同出張所の教務課長として、田川郡内小中学校の教員の人事管理に関する重責を務めてこられました。昭和五十年代は戦後の非行の第三のピークといわれ、「校内暴力」という言葉が誕生したのも

この頃のことでした。全国の多くの中学校がいわゆる荒れた状況にあり、田川郡内の中学校においても大変厳しい時代が続きましたが、先生は小中学校教育の充実・発展のため、最適な教員配置に尽力されました。また当時の学校教育法の改正により、教頭や主任・主事の職が新たに法制化され、教職員の間にもいろいろな混乱が生じた時期でもありました。このような状況の中、先生は学校教育への信頼をより一層確かなものとするため、校長や教頭の育成にも公私を問わず全力で取り組まれ、当時の管理職や管理職への道を進もうとする教員のすべてが先生の指導を受けたと言っても過言ではありません。

昭和五十四年度に添田町立津野中学校長、昭和五十八年度に添田町立添田中学校長に就任され、昭和五十九年度からは福岡県教育庁嘉穂出張と田川出張所が統合され新たに発足した福岡県教育庁筑豊教育事務所人事管理主事として筑豊地区全体の教員配置や管理職登用に心血を注がれました。この激務の後、昭和六十三年四月に添田町立添田中学校長として帰任され、後進に道を譲るため一年を残し、平成二年三月末日をもって退職されました。

退職後、先生は福岡県田川総合庁舎の児童生徒指導相談員として保護者や児童生徒をはじめ教員からのあらゆる相談に対し、的確な相談活動に当たってこられたとともに、添田町の教育委員として、地元添田町の小中学校の充実・発展のため尽力されました。田川郡

退職中学校長会の会員から寄せられた先生のお人柄は、何事に対しても「冷静沈着」「有言実行」のお手本となるような人物であったと聞いています。国からも先生の業績が高く評価され、平成十九年春の叙勲を受けられましたことは、私ども会員にとりましても大きな慶びです。

最後になりましたが、先生の過ごされた人生はまさに「教育の充実・発展」と「人材育成」に心血を注がれた輝かしい人生であったと改めて敬意を表します。今まで先生からいただいたきましたご指導と常に優しい笑顔の先生のお姿を偲び、これからも先生のごことは会員一同決して忘れることはありません。山本 徳孝先生、本当に長い間ありがとうございました。どうぞ安らかにお眠り下さい。

合掌

平成二十九年十月三日

田川郡退職中学校長会 会長 石田 修一